

第1回生駒市食育推進計画策定に係る食育部会

1. 日時 令和6年7月12日(金)

2. 場所 生駒メディカルセンター 3階研修室

3. 出席者

参加者 岩橋氏、松井氏、佐々木氏、山本氏、藤尾氏、清水氏、岡田氏、井上氏、水野氏、中嶋氏、窪井氏
事務局 吉村子育て健康部長、渋谷健康課長、原木健康課課長補佐、辻健康課成人保健係長、村田健康課母子保健係長、村田健康課係員、生水健康課係員、神所健康課係員

4. 傍聴者 1名

5. 議事内容

1)開会

2)案件

(1)第3期食育推進計画の評価と課題について

・事務局説明

(2)食育推進計画骨子案について

・事務局説明

(3)その他

・事務局説明

◆意見交換

○食育について

- 十数年前までは、食品や飲み物に含まれる塩分量や糖分量の把握など、保健所を通じて啓発活動が行われていたが、コロナなどの影響でこれらの活動はほとんどなくなった。今の時代にこそ、再びこういった啓発活動を行うべきではないか。
- 何年か前にPTAの持ち回りで、学校校区で大きな文化祭のようなイベントがあった。そのようなイベントの力を借りて、手づくりの味噌汁やカレーを提供して食べてもらえば、つくってもらったものを食べることの大切さに気付くきっかけになるのではないか。そういった部分も食育において大事な部分ではないか。
- 今は離乳食も良いものがたくさん出ていて、おかゆを炊いたことがないという話もよく聞く。親が子どもに食事を作る姿を見せることは、次の世代へつなげる大切なことだと思う。今は自治会でもいろんな活動をしている。ある自治会では月に1回、地域の人が作った昼ご飯をみんなで食べており、また、地域食堂も運営している自治会もある。これがもっと全市的に広がれば、世代間交流を図りながら食育にもつながるのではないか。
- 2023年11月にPTA主催のイベントがあり、豚汁を作ろうと会議で声をかけた。しかし、地域との関わりが薄れている上に、人が調理したものを配っても良いのかという課題が出た。考え方がそれ

それ違うため、それを実践することが一番の課題である。

- 以前は魚に触るのも嫌がっていた子どもが、食育イベントを通して食べられるようになったこともあった。そういった食育のイベントを再現できれば良いと考えている。
 - 作った野菜を自治会で販売したら、案外若い人がたくさん野菜を買ってくれる。野菜離れしているイメージがあったが、簡単なご飯を提供し、作り方を伝え、料理の仕方がわからない人でも買ってみようという気になる。
- 何らかの理由で、健康づくりに取り組みたくても取り組めない人は、どの地域にも一定数いる。その人たちが自然と健康になれるような体制づくりを行政も一緒に考えていかないといけないと感じている。地域の集いの場や地域での野菜の販売等なども、これから進めていくべきだと思う。

○健康診断について

- 高校を卒業するまでは毎年歯科健診があるが、大学以降は大半の人は自身で健診を受けなければならない。歯の健康は健康寿命につながるため、全員が何らかの形で健診を受けられるように事業が徐々に計画されている。義務ではないが、機会を提供する形で進められているので、ぜひ利用してほしい。
- 今までは歯科検診について、高齢者を中心にアプローチしていたが、最近は小さい頃から歯科健診の受診が推奨されている。
- 会社では年に1回健康診断を受けさせているが、再検査が必要な場合は個人に任せ、その後のフォローが十分にできていなかった。しかし、国のさまざまな活動を受けて、ラジオ体操や社員に万歩計を持たせて1日の歩数を記録し、全体会議で発表するといった取り組みを就業時間内に行うようにした。家庭にいる時間よりも会社にいる時間が多いため、企業向けの啓発や情報発信を強化し、健康経営の活動を推進していくと良いのではないかな。
- 歯科検診については、意識の高い人は予防のために定期的に検診へ行くが、そうでない人は痛みが出てから初めて行くことが多い。職域保健については、表彰制度を作るのが良いのではないかと考えている。周りに健康を意識する人が増えてくことで、健康になる人が増えていけば良いのではないかなと思う。

○給食について

- 味が薄いのかもしれない。
 - 今の若い人はインスタント食品などで塩分過多な食事になっているので、給食をおいしく感じない人もいると思うが、このまま塩分過多な食事を続けると、みんな大変なことになる。
 - 無添加や減農薬など、なるべく気をつけているが、ある程度味をつけるなど、工夫が必要である。
 - 給食の見本を置いたり、手づくりのおやつを出したりして工夫されている園もある。他の場所もこういった取り組みがあれば、もっと食に関心を持ってくれるのではないかな。
 - 給食選定委員会では、材料費が高騰している一方で給食費は上げにくいという話があった。実際に栄養士が給食で提供するものをいくつか並べて試食して選ぶということをしているが、美味しいものは単価が高いという問題がある。さまざまな要因で今の状態に落ち着いているのだと思う。
 - 給食が嫌で学校に行きたくないと言っていた子が、周りが食べだすと徐々に同じように食べるようになり、家でも苦手な魚や野菜を食べるようになった。
- 作ってくれた人への感謝の気持ちが大事ではないかな。食材を作ってくれた農家の人の気持ちや、みんな

な健康を考えて作られた給食だということを、小さいときはわからないかもしれないが、年齢が上
がると理解できるようになる。そういう場面を伝えることが大切だと思う。減塩に関しては、どの食品
にたくさん含まれているかを知ることや、味見をしてから味をつけるといった習慣をつけることが良い
のではないかな。

○アンケート結果について

- コロナの影響で、健康にとっては最悪の時期があった。そのため、アンケート結果でも現状維持のよ
うな結果になっている。これを改善する方向で取り組んでいくしかないと思うが、この計画を見てい
ると、自分では実践することが難しいと感じるものもあり、どこまで啓発して改善できるのか疑問に思
う。
- 周囲の力が大きいと思っている。例えば、絶対たばこはやめないと言っていた人が、周りの人がどんど
んやめて吸う仲間がいなくなると、ちょっとやめようかなと思ったりする。そのような効果を期待して、
目標を設定して取り組んでいきたいと思う。

(4)その他

・スケジュールについて

(5)閉会